



さんかく21・Anjo

安城



SNS



子どもとジェンダー

性



男女共同参画社会の実現は、多様な視点と才能を活かし、より豊かで持続可能な未来を築くために不可欠です。性別に関係なく、誰もが自分の可能性を最大限に発揮し、まずは尊重し合う家庭を目指しましょう。大人が自分自身の思考や行動を振り返り、固定観念を取り除くことが子どもたちの健やかな成長につながると思います。互いに支え合い、協力しながら、誰もが輝ける男女共同参画社会を創りましょう。

さんかく21・安城 会長 加藤 早苗

目次

- *子どもとジェンダー
 - SNSとジェンダー P2
 - 子どもの性とジェンダー..... P3
- *子どもが主役！
 - 子どもの権利ってなあに？..... P4
- *「仕事」と「家庭」と「自分」
 - ～私にとって大事な生き方は～... P4

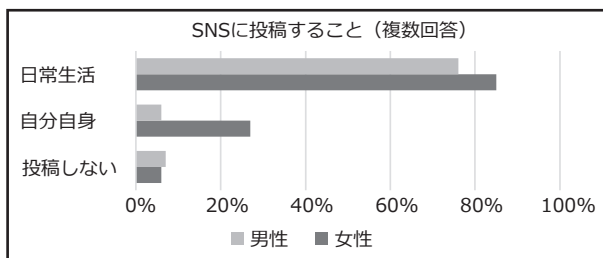
SNSとジェンダー

人口の25%にあたるZ世代*は、生まれたときから周りにデジタルの世界が広がっています。SNS（LINEやInstagram等のソーシャル・ネットワーキング・サービス）が欠かせないコミュニケーションツールになっている中、「SNSを通してのジェンダー」の実情を考えましょう。

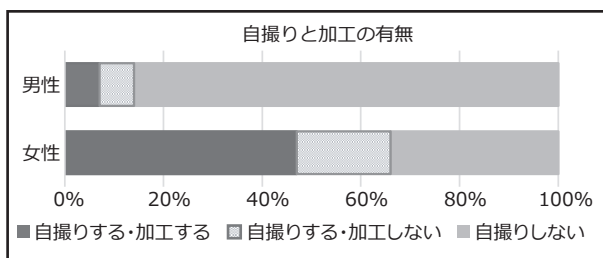


娘が最近よくSNSを利用しているみたい。性的・暴力的コンテンツに触れたり、デジタル性被害にあったりしないか心配だな…。小学生の「自撮り被害」も急増しているらしいし…。それに、何だか自分の外見をすごく気にして自信がなくなってきているみたいで心配だ。

大学生227名を対象にしたSNS利用についてのアンケート調査の結果

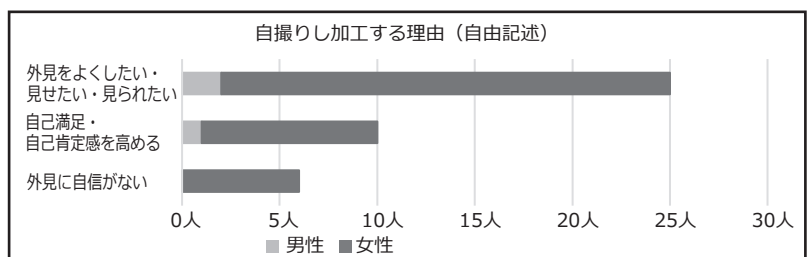
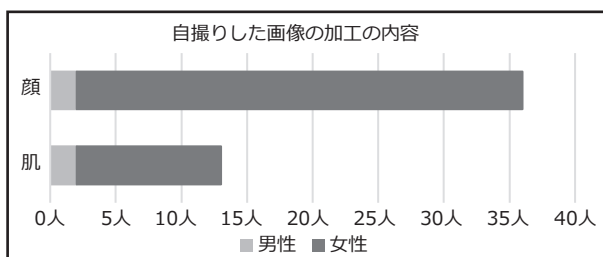


SNSに自分自身に関する投稿をするのは、女性に多いと読み取れるね。



自撮りした写真を加工する女性が多いことがわかるね。

2024年6月の総務省公表によると、SNSを通じたトラブルに多いのは「他人の投稿と自分を比べてストレスを感じる」とだそう。加工の動機はそういうことも関係しているのかな？



出典：田中 洋美・高橋 香苗「若者によるソーシャルメディアの利用とジェンダー－大学生を対象とするアンケート調査をもとに－」情報コミュニケーション学研究 2021 第20号 pp.94-110（一部改変）

自撮りした画像（主に顔・肌）を加工し外見を良くすることで、自己満足や自己肯定感を高めることにつながっています。SNSを利用する女性は、SNS上での女性らしい表現や写真といったジェンダーステレオタイプ**を持っていることも報告されており、SNSの利用を通して、ジェンダーが強調されていることがうかがえます。

子どもにとってのSNSは日常的な学習ツールでもあり、社会的スキルやコミュニケーションの向上等多くの利点がありますが、様々なトラブルや影響もあります。しかし、日本ではSNS利用を直接制限する法律はまだないため、それぞれの家庭でルールなどを話し合うことが大切だと思います。

まずは、親子で話し合っ SNS への関わり方を一緒に考えてみませんか？そして、大人たちが家庭や社会の責任について考えていくことが、より良い未来につながるのではないのでしょうか。

* Z世代:1990年代半ばから2010年代前半に生まれた世代 **ステレオタイプ:社会に広く浸透している固定的な観念やイメージ

子どもの性とジェンダー

日本での「子どもの性被害」は一日推定 1000 件以上とされています。性犯罪の被害は女性に多いと考えられてきましたが、ここ数年、男性の被害届も増え、性別にかかわらず深刻な問題になっています。

子どもの場合、自分が被害者であることに気づかないこともあります。性とジェンダーについて子どもと一緒に考えましょう。

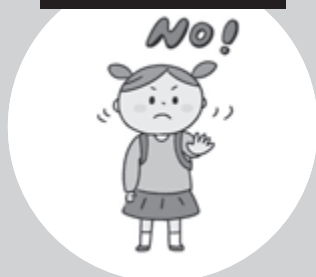
わたしのからだはわたしのもの

誰しも「わたしのからだはわたしのもの」であり、「からだの自己決定権」を持っています。子どもたちが「自分のからだところ」を守るために、自分以外の人のからだに触れるときは同意が必要だということを伝えましょう。大人が子どもに触れるときにも、子どもに触れていいかどうか丁寧にたずねることで、子どもは自分が大事にされていると感ずることができずす。

性暴力被害にあつたら「NO・GO・TELL」

無理やりからだを触られそうになつたり、見られたり、性的な行為を強要されそうになつたときには、まず3つの対処法があることを伝えずす。

NO: いやとずう



GO: にげる



TELL: だれかに話す、相談する



相談されたら、「あなたは悪くないよ」と伝えずす。

「友だちが被害にあつたときも、この3つの行動を覚えておいて助け合おうね」と伝えたいです。

※NO GO TELL はNPO 法人CAP センター・JAPAN のプログラムです。

出典: コクリコ 10歳までの「性教育」性暴力や性犯罪に子どもが巻き込まれないために必要な知識とは (<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/health/seikyoiku/5D5V2>)

相談窓口

性犯罪被害相談電話
ハートさん
#8103



キュアタイム
Curetime
(SNS 相談・メール相談)



多様性の時代 ～人の性や価値観はさまざまである～

自分の性のあり方に気づくのは小学生から高校生くらいが多いです。人の性や価値観は多様であるということを理解し、カミングアウトされたときは、信じて話してくれたことに対してまず、「言いにくいことを話してくれてありがとう」と伝えずす。

それから「何かできることはある?」と伝えずると、相談しやすくなるでしょう。

包括的性教育の大切さ

子どもたちが自分の権利を含めて「性教育」を学ぶのは、自分と他人のからだについて正しく知り、自己の性と健全に向き合い、よりよく生きるために必要なことです。子どもたちに「人は生まれたときから、大切にされるべき存在で、自分らしく、安全に、楽しく、健康に生きていく権利があること」を伝えていずす。それが性的ないじめの被害者にも加害者にもならないことにつながると思ずす。

令和6年度男女共同参画サテライトセミナー

子どもが主役！子どもの権利ってなあに？を開催しました！

令和7年2月15日(土)
オンライン講演会

講師：甲斐田 万智子氏（認定NPO法人国際子ども権利センター（C-Rights）代表理事）

子どもの権利とは

世界中のすべての子どもが、心身ともに健康に、自分らしく育つための権利です。
子どもの権利の基本は、1989年11月の国連総会で採択された「子どもの権利条約」に定められています。

なぜ子どもの権利を尊重する必要があるのか？

- * 権利を知ること、子どもは1人で悩んだり、孤立しなくなる。
- * 参加の権利を使うことを通して、子どもたちが主人公になり活躍できる。

子どもの権利は大きく分けて4つ

生きる権利

育つ権利

守られる権利

参加する権利

✦ 受講者の声

- ・ 子どもが社会の一員としてみなされ、子どもの声をきちんと聴くことのできる社会になることを願っています。
- ・ 子どもが不登校中なのですが、子どもの権利視点から考えるとまた見方が変わり、心が軽くなりました。
- ・ 甲斐田氏のお話を聴いて、子どもたちの権利を尊重し、子どもが主人公になれる社会を作っていきたいと思いました。



令和7年度男女共同参画週間イベント

「仕事」と「家庭」と「自分」

～私にとって大事な生き方は～を開催しました！

令和7年6月29日(日)
安城市民交流センター多目的ホール

講師：高田 浩史氏（国語・作文教室「文間分」主宰）

フルタイムで働いて、家事や育児をしているという高田先生。

『「ワークライフバランス」に対する人々の意識が変化し、家事・育児に積極的に取り組む男性が増えている。仕事と家事の両方をするは大変だが、イヤイヤするより楽しもう。いろいろな役割をできるのはありがたいことでもある。そして、パートナーに感謝の気持ちを伝えよう。仕事と家事、どちらも完璧を目指さず、頑張っている自分を肯定しよう』とお話をされました。

✦ 受講者の声

- ・ パートナーに感謝し、良好な夫婦関係を築くことが男女共同参画を進めることにつながると感じました。
- ・ 「すべて100%じゃなくていい」という言葉に救われました。効率を考えすぎず、手伝ってもらおうと思います。
- ・ 妻から何か言われると反発してしまっていたのですが、もっとコミュニケーションを取って感謝を伝えるようにしたいです。



●「さんかく21・安城」とは●

男女共同参画社会の実現をめざす市民グループの
ネットワークの会です。

（令和7年5月末現在のグループ一覧）

安城市食育健康づくりの会 / 安城更生保護女性会
安城国際交流友の会 / ウイメンズネット安城
NPO法人 ing / 刈谷・知立・安城おやこ劇場
グリーンそう / 国際交流安城はなのき会
指定生活介護事業所ぬくもりの家
チームゆめぼん
日本デンマークルネッサンス推進機構
BBFクラブ
ボランティアネット北明治の会
やはぎ会安城支部
14団体 個人会員31名



市公式ウェブサイト
「さんかく21・安城」紹介ページ

編集 後記

子どもとジェンダーについて、SNSと性の視点で捉えましたが、どちらも奥が深く、時代によって変わっていきます。私たちは、子どもの置かれている状況にいつも関心を持ち、学び続け、子どもがお互いの個性を尊重しながら、ありのままの自分を表現できるように手助けをしていきたいです。

41号編集委員

久恒美香・小鹿登美・旭多貴子・
加藤早苗・木村なぎさ

企画・編集：さんかく21・安城

発行：安城市

問合せ 安城市市民生活部市民協働課

〒446-8501 愛知県安城市桜町18-23

Tel (0566) 71-2218 Fax (0566) 72-3741

Mail kyodo@city.anjo.lg.jp